

企業名：ヤスハラケミカル株式会社

レポート名：ヤスハラケミカル株式会社の価値

1. この会社が目指す姿が理解できるか

ヤスハラケミカルは、「テルペン」を主原料とする化学メーカーで、工業原料を製造している。従来利用されていなかったものに原料としての有効性を見出し、「社会に還元する」精神のもと高付加価値な製品を提供してきたヤスハラケミカルは、目指す姿として事業活動を通しての社会の発展、持続可能な暮らしの実現を挙げている。私は、これに対し、接着剤やゴム・プラスチックなどの改質剤、ラミネートフィルム、香料原料や洗浄剤などを作ることに於いて、有限である石油資源ではなく、松の木やオレンジなどの柑橘類の皮から取れるオレンジオイルに含まれる、再生可能な資源であるテルペンを使い事業活動を行っていることから、この会社が掲げている目指す姿である、社会の発展や持続可能な暮らしの実現というのを理解することができると思う。

2. この会社の競争優位性が理解できるか

ヤスハラケミカルは、石油資源ではなく、再生可能な資源であるテルペンを使って、接着剤やゴム・プラスチックなどの改質剤、ラミネートフィルムや化成品など幅広い製品を作り上げることで社会に貢献している。有限である石油資源ではなく、テルペンを使うことで、環境への配慮ともなり、さらには安定供給にもつながり、社会の発展へとつながると考えられる。また、高い技術力から生まれる製品は、海外では高い評価を得ていることからヤスハラケミカルの競争優位性は高いと理解することができると思う。

3. その競争優位性に持続性があるかどうか理解できるか

ヤスハラケミカルは、中長期的経営方針としては収益性改善、新規開拓、グローバル展開を掲げている。新興国市場など成長を取り込める事業を展開している顧客を探索することで、海外市場の新規開拓と拡大を目指し、さらに研究開発と事業化の加速を図りながら、付加価値の見込める分野、用途を開拓することで、より需要を増やすことにつながると考えられる。また、働き方改革の一環として社内業務のデジタル化を進めることで、生産性を高めることにつながり、ヤスハラケミカルの競争優位性に持続性はあると理解することができると思う。

4. この会社で自身の人的資本の価値向上を達成できると思うか

ヤスハラケミカルは、働き方改革の一環として、デジタル化を推進する「IT グランドデザイン計画」に取り組んでいる。これは、デジタル技術をうまく使うことで、事務所内でやっ

てきた仕事を自宅やリモートでもできるようになり、そうすれば作業時間と移動時間を今より削減でき、その時間を使って別の仕事ができるようになるというものである。このデジタル化を進める目的として、「仕事のタネ」を見過ごさないよう、社員一人ひとりが日頃から視野を広げ深掘りする時間を創り成長することで、会社全体の生産性を高めることを挙げている。このことから、人材育成にも力を入れていることが分かり、人的資本の価値向上を達成できると考える。

5. 報告書にはどのような改善余地があるか

ヤスハラケミカル環境・社会報告書は、基本理念や目指す姿、ヤスハラケミカルについて、売上高や取り組みについてなどグラフや写真などとても見やすく、そしてわかりやすくなっていると思われる。しかし、グローバル展開などについて多く触れられているが、実際の数値などが少ないため、そのような数値をグラフ化すればもっと良くなると思われる。